

「教育臨床総合研究 6 2007研究」

平成18年度の基礎体験領域の取り組みについて

A Report of Approaches on "Basic Experience Area" in 2006

嘉 賀 收 司*

Shuji KAGA

山 中 慎 嗣*

Shinji YAMANAKA

小 川 巖**

Iwao OGAWA

齋 藤 英 明*

Hideaki SAITO

秦 光 司*

Koji HATA

I 1年間の取り組みの概要

1. 平成17年度の課題を受けての今年度の改善点

(1) 実際の活動状況の把握について

昨年度までは、学生が応募してきた時に活動記録票を渡し、活動後にはそれを受け取るだけであった。

それを、今年度からすべての活動毎に支援センターの活動担当の教員と学生が活動前に事前指導を、そして活動後に事後指導を行うようにした。(だんだん塾)

事前指導では、体験活動の概要の把握や学生の目標決めなどを行った。事後指導では、センター教員が体験活動の時間認定を行い、学生は自己評価を行った。また、ともに活動の振り返っていくことで、学生の学びを認めたり活動における悩みを聞いたりしながら、今後の活動への励ましや課題や方向性を持たせた。

(2) 体験記録票の改定について

昨年度までの体験記録票にも学生が感想を書く欄はあったが、単なる感想になりがちであった。また基礎体験活動として付けてほしい力が学生にも分かりやすい観点にならず、振り返りの視点がはっきりしていなかった。

そこで、まず基礎体験活動としてねらう6つの力(子ども理解、人間関係力、社会の一員としての自覚、企画力、指導力、学校理解)を具体化して評価の具体的観点を学生に示

*島根大学教育学部附属教育支援センター専任基礎体験領域担当

**島根大学教育学部附属教育支援センター長(心理・発達臨床講座)

すと同時に、自己評価ができるようにした。活動前に活動に応じた目標を書かせる欄を設け、活動後に学生に体験を自分自身で振り返りができるように体験の感想や今後の課題が書ける欄を設けた。

体験記録票 表(1 回目)

体験記録票 裏

(3) 受け入れ先と連携について

これまで入学してきたばかりの1年生には、大講義室で受け入れ先の方から事業内容を一方的に説明してもらう形式であった。また、個別に受け入れ先と話をすることはあっても、複数の受け入れ先の方々と連絡会議を開いたことはなかった。

そこで、今年度は7月に学生が28の受け入れ先の方々と個別に話を聞きながら質問もできるポスターセッション形式で合同説明会を行った。また、その説明会の後、28の受け入れ先の36名の方々と教育支援センターとの連絡会議を開き、基礎体験についての説明や意見交換を行った。

また、2月の教員養成GP総括フォーラムの午前中の部のディスカッションでは、受け入れ先との方々と学生が、学生が入ってくることでのメリットや受け入れ先の意識の変容そして学生の学びなどについて意見交換を行い、受け入れ先・大学・学生の3者の連携のあり方の方向性を共有することができた。

2. 平成18年度の具体的な取り組み

(1) サポートマイスター講演会

サポートマイスター（島根大学教育学部の外部評価委員）の方々の中から今年は3名の方に、学生に向けてそれぞれの方々の特長分野からの講演をしていただいた。

回数	月日	サポートマイスター	講演テーマ
第1回	6月9日	園山土筆（劇団あしぶえ主宰）	これからの時代に必要な表現力とコミュニケーション力
第2回	7月21日	西田真哉（国立三瓶青少年交流の家所長）	人とかかわり ちょっとした気づき
第3回	12月21日	原 広治（島根県教育委員会高校教育課）	特別支援について

(2) だんだん塾

1) 全学年を対象としたセミナーの実施

回数	月 日	セミナー講演者	セミナーテーマ
第1回	7月14日	徳永峻二、中本 諭 (教育学部4回生)	キャンプファイヤーレクを学ぶ
第2回	11月15日	足立隆博 (鳥根県レクリエーション協会常任理事)	レクリエーションの奥義を学ぼう
第3回	11月27日	佃 稔 (前海士中学校長、現海士町教育長)	教職を目指す大学生に望むこと



写真1 先輩からレクを学ぼう



写真2 学校現場の話进行こう

2) 事前事後指導回数 (747回)

事前事後指導回数 (平成18年4月～平成19年3月)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
15	68	60	56	81	77	111	75	79	33	56	36

上の表の回数はいくまでもHP上で掲載された回数であって、活動によっては活動に関する相談を受けたり、事中指導を行ったりしていたために、これ以上の指導回数である。

3) 専任教員による日常相談活動

不定期であるが、学生からの要望等で日常相談活動を行った。

- ① 教員採用試験に向けての願書添削や面接指導
- ② 基礎体験活動における個別相談
- ③ その他

(3) 基礎体験セミナー

体験ごとの事前事後指導とは別に、学年全体であるいは2学年にわたっての学生間の情報交換や思いの共有を主なねらいとして、4年間で8回の基礎体験セミナーを計画した。

平成18年度は計画に従い、計4回実施した。

入門期セミナー (1年生対象)	平成18年4月15日 (土) 16日 (日) 鳥根県立青年の家
ねらい	・教育体験活動「1000時間体験学修」の全体像を把握し、4年間の大学生生活の見通しを持たせるとともに、教育学部生としての自覚を促す。これから学生生活を共にする同級生やサポーターとして参加する先輩との交流を深め、今後展開される教育体験活動において苦楽を共に享受しようとする仲間意識を培う。

充実期セミナー（2年生対象）	平成18年9月25日（月） 5・6校時 38番教室
ねらい	・昨年度末の交流会を踏まえて、その後取り組んできた基礎体験学修を振り返るとともに、これまで各自が取り組んできた基礎体験学修のデータを分析し、各自の傾向を把握させる。
応用期セミナー（3年生対象）	平成18年12月21日（木） 5・6校時 大学会館
ねらい	・これまで取り組んできた基礎体験学修のデータを基礎体験領域によって培う資質能力について、各自の傾向を把握する。 ・実習セメスター計画暦により実習セメスター中の生活を振り返るとともに、実習セメスターにおける基礎体験学修の総括を行う。
1・2年交流会（1・2年生対象）	平成19年2月20日（火） 5・6校時 38番教室
ねらい	・基礎体験で取り組んだ今年度の活動実績の確認をするとともに、それらの振り返りを通して自己内省を促す。 ・他の学生の体験を聞き合い、自分が参加した体験以外の情報の共有化を図ると共に、他学生の振り返りや講義を刺激として今後の体験活動への意欲化を図る。

（4）島大ビビットひろば

昨年度の「ウィークエンドスクール in 島大」の名称を変え、松江市内小学3年生から6年生までの児童を対象とした。

1) 活動のねらい

松江市内を中心とした子どもたちに安心して安全な週末の活動拠点を提供する。また、本事業を通じて、学生が子どもたちに組織的、継続的に関わる機会を確保するとともに、学生が自ら組織し、企画・実践・評価（反省）の一連の教育活動を体験し、実践力を高める場とする。さらに、各講座の専門性を地域教育活動の場で発揮する機会を確保する。

2) 学生スタッフ 1年生18名、2年生8名、3年生8名 合計36名

実施時期 前期	日時 参加児童数 開設講座
第1回	平成18年7月8日（土）9：30～12：00 参加者134名 4講座（スタッフ、自然環境、健康スポーツ、英語）
第2回	平成18年7月22日（土）9：30～12：00 （大雨の影響のため中止）
第3回	平成18年8月19日（土）9：30～12：00 参加者182名 3講座（スタッフ、健康スポーツ、英語）
第4回	平成18年8月26日（土）9：30～12：00 参加者154名 3講座（スタッフ、健康スポーツ、英語）
後期	
第1回	平成18年11月25日（土）9：30～12：00 参加者113名 4講座（スタッフ&健康スポーツ、自然環境、音楽、英語）
第2回	平成18年12月9日（土）9：30～12：00 参加者154名 5講座（スタッフ、健康スポーツ、自然環境、音楽、英語）
第3回	平成18年12月23日（土）9：30～12：00 参加者138名 4講座（スタッフ、健康スポーツ、自然環境、英語）
出前ビビットひろば IN 雲南	平成19年2月24日（土）10：00～15：00 この時は、スタッフの学生10名と留学生4名と支援センター職員6名で、雲南市三刀屋文化体育館で開催された「子どもの生活リズム向上全国フォーラム in しまね」第1日目のワークショップブースに出展した。

(5) 合同説明会と基礎体験学修連絡会議

日時	平成18年7月5日(水)
	合同説明会 13:30～15:00 連絡会議 15:00～17:00
場所	学生会館3階大集会室及び2階集会室

(6) 実習セメスター

平成18年度より3年生後期を実習セメスターとし、基本的に教育実習以外の講義・演習等の履修をせず、この期間に学外での基礎体験学修を行うこととなった。学生は島根鳥取両県の市町村教育委員会等から出された募集の中から選択し、活動を行った。主に平日の公立小中学校での活動であったが、参加した学生は子ども理解、学校理解などの点において大きな学びがあったという感想を事後指導等で述べていた。

以下に実習セメスターの学生の参加状況、受け入れ先のアンケート集計結果を載せた。

表1 実習セメスターでの受け入れ先および参加学生人数
実習セメスター基礎体験学修参加状況・市町村別集計

		受け入れ数	活動数	参加人数	活動日数	活動時間数
					延べ日数	延べ時間数
1	米子市	9	9	22	160	1672
2	境港市	2	2	6	25	210
3	伯耆町	2	2	2	12	169
4	大山町	1	3	6	21	674
	鳥取県	14	16	36	218	2725
5	海士町	2	3	15	119	1376.5
6	松江市	6	14	65	249	1298.5
8	奥出雲町	2	4	10	74	706
9	雲南市	3	3	9	101	914.5
10	出雲市	7	11	23	91	897
	島根県	20	35	122	634	5192.5
	全体	34	51	158	852	7917.5

表2 実習セメスターアンケートのまとめ(受け入れ先)

☆実習セメスターについてアンケート調査から①(受け入れ先)

1 実習セメスター基礎体験学修 島根・鳥取両県参加状況

	受け入れ数	活動数	参加人数	活動日数		活動時間数	
				延べ日数	平均日数	延べ時間数	平均時間数
鳥取県	14	16	36	218	6.1	2725	75.7
島根県	20	35	122	634	5.2	5192.5	42.6
全体	34	51	158	852	5.4	7917.5	50.1

2 実習セメスターにかかる受け入れ先へのアンケート状況

実 数		⑤	④	③	②	①	回答数	
		とても よ い	よ い	ま あ ま あ	あ ま り よ く ない	よ く ない		
学 生 に 関 す る も の	1	学生の活動は期待通りだったか	20	19	6	1	0	46
	2	活動に対する参加意欲や態度	27	15	1	2	0	45
	3	子どもに接する姿勢	24	19	1	0	0	44
	4	学習支援に向かう姿勢	20	18	4	1	0	43
	5	あいさつなどのマナー	19	19	5	2	0	45
	6	服装などの生活面	20	20	5	0	0	45
大 学 に 関 す る も の	7	実施前の説明の時期	3	11	22	7	1	44
	8	セメスターの内容の説明	3	12	27	0	0	42
	9	学生募集の手続き	2	14	23	3	0	42
	10	大学教員の訪問	6	13	18	2	0	39

3 来年度の実習セメスターの応募について

	項 目	人 数 (人)
3	す る	42
2	わ か ら な い	3
1	し な い	0

寄せられた声：

○児童へのよい刺激となり、学校が活気付いた。 ○児童に積極的に関わり、声をかけ、たくさん遊んでもらえた。 ○個人指導をしてもらえてよかった。 ○できるだけ子ども達との関わりを大切にしながら図書運営を手伝っていただき、また積極的に取り組んでいただき予想以上に成果が得られた。 ○海辺での安全面の監督も複数の目で行うことができよかった。 ○よく働きよく児童と遊び、学習支援も担任が次々に来て欲しいというほどでした。 ○期待以上の活動ぶりでした。 ○様々な面で職員の支援（手助け）となった。

△受け入れ側として初めてのことで体験学修の意図がよく分からず期待もできなかった。 △子どもに対する姿勢については総じてある程度評価できますが、その熱意をうまく表現できるかどうかについては個人差が大きかったように感じます。 △こちらもどの程度要求してよいのか、手探りのところがあり、十分に活用することができなかった。 △音楽の授業で女声の発声についてイメージをあたえてもらえてよかったが、期間が短すぎた。

表3 実習セメスターアンケートのまとめ（学生）

☆実習セメスターについてアンケート調査から②（学生）

設問1 あなたは実習セメスター期にどのように過ごしましたか

(1)	通常の基礎体験のみに参加した	53
(2)	実習セメスター用基礎体験あるいは通常の基礎体験の両方に参加した	103
(3)	いずれも参加しなかった	17

★実習 Semester 用基礎体験に参加しなかった理由（設問1の（1）の回答者 複数回答）

(1)	体験時間が十分にあり、そこまでする必要がなかった	16
(2)	通常の基礎体験が忙しくて、余裕がなかったから	6
(3)	興味のある体験がなかったから	12
(4)	集中講義等で行きたい体験の日程が合わなかったから	13
(5)	その他	16

その他と回答した内容

興味のあるものが定員オーバーだったから。日程が合う体験の抽選にもれたから。海士小学校の抽選にもれたから。場所、条件。詳しいことを書いてないから行きたいと思わない。他にしたいことがあったから。時間の都合上。研究室での活動が多くあった。実習期間と重なった。実習で行う授業がまだやらなければならなかったから。バイトがあった。部活動が週5回で、指導者のために時間がない。主専攻枠の体験が3年の4月からようやく始まり、他の体験より優先したかった。部活動の引退前であり、試合などがかぶっていたから。活動に人数制限があり、抽選にもれたから。車がなくて交通手段に困ったため。

★Semester 用基礎体験に参加した理由（設問1の（2）の回答者 複数回答）

(1)	せっかくの機会だから	74
(2)	教育実習の前後で学校教育に関われる絶好の機会だから	25
(3)	学校理解や子ども理解について課題があったから	8
(4)	その他	14

その他と回答した内容

何かに行かないと1,000時間にならないと思ったから。このままでは卒業できないと思ったため。時間数が足りなかったから（4人）。内容がおもしろそうだったから。興味があったから。友達に誘われたから。社会に出るためにいろいろと吸収したかったから。継続している活動だったから。卒業するために必要な要件だから。自分の主専攻に関わる内容だったから。

★参加しなかった理由（設問1での（3）の回答者 複数回答）

(1)	体験時間が十分にあるから	2
(2)	興味のある体験がない	4
(3)	体験の日程があわない	5
(4)	その他	5

その他と回答した内容

特になし

Ⅱ 平成18年度の成果と課題

1. 成果

(1) 基礎体験領域の活動内容の決定

新カリキュラムになって3年目になり、1年間で、あるいは4年間で学生にどんな力をつけさせたいのか、そのために何をさせたいのかなど、活動内容の充実や精選を行うことができた。特に基礎体験セミナーとして、半期に一度学年や異学年全体で振り返る場を設けたことで、事後指導による省察だけでなく、全体での情報交換や考え方などの共有などを行うことができた。下に前に述べた改善点を組み入れた平成18年度の活動内容を載せる。

表1 平成18年度基礎体験領域の年間活動内容一覧表

附属教育支援センター

平成18年度 基礎体験領域における年間活動計画

区分	活動名/他	対象	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
学内	基礎体験セミナー	1年	入門期セミナーⅠ	入門期セミナーⅡ		基礎体験合同説明会												
		2年						充実期セミナー						1,2年合同交流会				
		3年										応用期セミナー			3,4年合同交流会(今年度中止)			
		4年						発展期セミナー										
	サポートマイスター講演会	共通			①岡山士肇先生	②西田真哉先生			③	④	⑤	⑥	⑦	⑧				
	島大ピットひろば	共通				① ②	③ ④							出前イベント				
基礎体験学修連絡会議	共通					第1回会議							第2回会議					
だんだん塾	共通	外部講師を招いた講座 専任教員による学生支援活動～①事前・事後指導及び日常的な相談活動 ②専任教員の特性を活かした講座																
講座	講座別体験プログラム	専攻学生	教育学部の各講座の特性を活かし、講座主催による年間を通した体験プログラムを企画・実施する。															
民間	NPO法人(若か)民間団体	共通	キャンプ、ジュニアリーダー養成研修、レクリエーション指導者養成、週末子ども体験事業 他															
国	三瓶青少年交流の家		共同調査研究事業、研修事業及び施設ボランティア															
県	島根県		適応指導教室、県立特殊教育諸学校の学習支援、定時制高校の学習支援、青少年教育施設での研修及び施設ボランティア 他															
	島根県		サタデースクール、子どもの居場所づくり事業 他															
	出雲市														実習セメスター教育体験活動	小中学校学習支援、科学実験教室補助 他		
	安来市														実習セメスター教育体験活動	ウィークエンドスクール		
	江津市														実習セメスター教育体験活動	週末子ども体験事業		
	雲南市																	
	東出雲町																	
	奥出雲町																	
	飯南町																	
	斐川町																	
	川本町																	
	美郷町																	
	海士町																	
	島根県米子市															キャンプ	実習セメスター教育体験活動	小学校学習支援、スキー教室
	境港市															学童保育	実習セメスター教育体験活動	小中学校学習支援
	伯耆町															学童保育	実習セメスター教育体験活動	教育研究会参加、小学校学習支援
	南部町															学童保育	実習セメスター教育体験活動	
日吉津村																		
他	島根県浜田市																子ども美術館事業	
	隠岐の島町																心に悩みをもつ子どものキャンプ	
	島根県大山町																通学合宿	実習セメスター教育体験活動

(2) 事前・事後指導について(だんだん塾)

前述したように、今年度から日常的にシステムとして取り入れたことで、特に事後指導における学生自身の活動に対する省察が行われるようになった。その結果、活動への学びや課題を見つめなおすことができた。

(3) 受け入れ先の拡大および連携について

平成18年度の受け入れ先の状況を資料1に示した。年々受け入れ先の数が増えてきている。基礎体験領域の活動が地域社会に認知されてきたことの表れだと考えられる。

また、これまで受け入れ先とは、事前の体験活動の確認をしたり体験活動中の学生の様

子を聞いたりすることはあったが、多くの受け入れ先の方々と一同に会して、基礎体験活動のシステムや学生の様子について話し合うことはなかった。

平成18年度は7月に初めて合同連絡会議を行うとともに、年度末に受け入れ先にアンケート調査をした。また、2月の教員養成GP総括フォーラムでは、受け入れ先の方々のいろいろな意見や要望を聞き、活動の見直しを図ることができた。

(4) 鳥大ビビットひろばの活動について

平成17年度から初めて行った事業ということもあり、昨年度はどちらかといえばセンター教員主体の活動であった。しかし、平成18年度はよりセンター教員の指導のもと、学生主体の活動になることを目指した。昨年度からのスタッフを中心に、事業企画から配布チラシ作りや当日の準備・運営まで、深く関わり取り組むことができた。

(5) 実習セメスターについて

前述したように、今年度から始まった実習セメスターに関して、島根・鳥取両県の市町村教育委員会をはじめ、それぞれの小中学校等の34箇所の受け入れ先から51もの募集があった。学生自身の学びがあっただけでなく、受け入れ先の学校等にも大変喜んでもらった。学生が地域に入っていくことの良さがこれまでよりも広い地域で認められるようになった。

(6) 兼任会議とのかかわりについて

これまであまり開かれなかった兼任会議を平成18年度は4回開き、専攻に日ごろなかなか伝わりにくい基礎体験のシステムや専攻別体験について共通認識を持つことが出来ようになった。

2. 課題

(1) 指導時間の確保について

事前事後指導の回数がふえたり、全体で振り返ったり、講演会などを行ったりするようになると、時間割として決まった基礎体験領域の授業時間の確保の必要性を感じる。いつ学生と事前事後指導をしたり、支援センターとして学生に提供する講演会やだんだん塾や基礎体験セミナーを開いたりする時間をどう確保するのが、今後の課題である。

(2) 4年間の見通しの意識付けについて

学生によっては、1年生入学したときからどんどん基礎体験活動に取り組み、1年生終了時には200時間以上活動したという学生もいる。一方で、3年生終了時にまだ200時間ちょっとという学生もいる。平成18年度から3年生後期には実習セメスターが導入され、平日の公立学校からの募集も多くかかり、体験の幅も広がってきているが、せっかくの学ぶ機会があっても、時間数が卒業要件の時間数に達しているのに、活動に対して消極的な3年生以上の学生も多い。教員を目指す学生にとってはさらに学びが深まる学年でもあり、どういう見通しを持たせるのが課題である。

(3) 専攻との連携について

卒業年度に迎えるにあたり、基礎体験時間が不足している04生も何名かいる。支援センターは学生の体験時間数について専攻と連絡をとり、そういった学生の指導を専攻が主体となっていくことになっている。今後はそういった学生に専攻と支援センターと上手く連携をとっていくことが課題となってくる。

(4) 広報

今年度新しく始まった事業等もいろいろあるが、それらをその都度HPなどで広報してきたと言えない。来年度は、学内だけでなく学外に向けても、活動報告だけでなく学生の学びの様子などをどんどん発信していきたい。

資料1：学外での受け入れ先

1	鳥根県教育委員会義務教育課	62	鳥取県教育センター
2	鳥根県地域教育力再生協議会（生涯学習課）	63	鳥取県教育委員会
3	鳥根県立青少年の家	64	鳥取県立船上山少年自然の家
4	鳥根県臨床心理士会	65	鳥取県立大山青年の家
5	東部鳥根心身障害医療福祉センター	66	鳥取県立米子養護学校
6	青少年育成鳥根県民会議（青少年）	67	大山町教育委員会
7	鳥根県立安来高校	68	大山町教育委員会なわっ子クラブ
8	鳥根県立松江工業高校（定時制）	69	境港市教育委員会（シンフォニー少年少女合唱団）
9	鳥根県立松江南高校	70	境港市立余子小学校
10	松江西高等学校	71	境港市立中浜小学校
11	安来市立宇賀荘小学校	72	米子市立東山中学校
12	安来市市民参画課	73	米子市立後藤ヶ丘中学校
13	松江市観光文化振興課	74	米子市立福生東小学校
14	松江市教育委員会指導課	75	伯耆町教育委員会
15	松江市教育委員会生涯学習課	76	松江税務署
16	松江市教育委員会青少年支援課	77	三瓶青少年交流の家
17	松江市観光文化振興課、京都造形芸術大学	78	古志原公民館
18	松江市立第三中学校	79	大庭ブルーサンダース
19	松江市立長江小学校	80	大庭ブルースターズJr.吹奏楽団
20	松江市 幼稚園特別支援幼児教室	81	鳥根県サッカー協会
21	松江市立乃木小学校	82	乃木小学校プラスバンドクラブ
22	松江市立生馬小学校	83	附属小学校ちどり卓球クラブ
23	松江市立母衣小学校	84	KIDS嫁島
24	松江市立母衣幼稚園	85	鳥根少年サッカースクール
25	松江市立幼保園のぎ	86	川津Jr.プラスバンド
26	松江市立美保岡小学校	87	川津フットボールクラブ
27	雲南市教育委員会学校教育課	88	中央小学校サッカークラブ
28	雲南市銅鐸の響き加茂弥生まつり実行委員会	89	中央児童クラブ
29	雲南市立大東中学校	90	松江養護学校PTA
30	雲南市立三刀屋中学校	91	学童クラブ保護者会
31	出雲科学館	92	城西児童クラブ
32	出雲市ユースプラン21推進委員会（出雲市市民活動支援課）	93	城北子ども広場実行委員会
33	出雲市教育委員会生徒指導係	94	清心養護学校学童クラブ
34	出雲市四路コミュニティセンター	95	川津児童クラブ
35	出雲市立東小学校	96	玉湯町子ども連合会
36	大田市教育委員会生涯学習課	97	出雲郷地区子ども読書会
37	大田市山村留学センター	98	鳥根県ことばを育てる親の会 雲南、斐川、平田支部
38	大田市立仁摩中学校	99	鳥大生協
39	東出雲町教育委員会	100	松江市手をつなぐ育成会 学校部会
40	東出雲中学校	101	松江市特別支援教育研究会
41	揖屋幼稚園	102	日本自閉症協会鳥根県支部
42	斐川町教育委員会（生涯学習課）	103	松江市ことばを育てる親の会
43	奥出雲町教育委員会（生涯学習課）	104	鳥取県ことばを育てる親の会
44	日原中学校	105	八雲青少年育成の会
45	隠岐の島町教育委員会生涯学習課	106	「出雲の子」リーダー養成研究会
46	海士町教育委員会	107	安来レクリエーション協会
47	海士町中央公民館	108	NPO法人ねお
48	五箇公民館	109	NPO法人YCスタジオ
49	五箇中学校	110	NPO法人まちづくりネットワーク鳥根
50	鳥根大学国際交流プロジェクト	111	おやこ劇場松江センター
51	鳥根大学生涯学習研究センター	112	ぐるぐるアート世話人会
52	鳥根大学教育学部障害児教育・特別支援教育研究室	113	しまね子どもをたばこから守る会
53	山陰エネルギー環境教育研究会	114	安部榮四郎記念館
54	子どもの生活リズム向上全国フォーラム実行委員会	115	内中原ホーム
55	教員養成パワーアップセミナー実行委員会	116	住雲寺
56	附属幼稚園	117	総本山 一畑寺
57	附属小学校	118	来待ストーン
58	附属中学校	119	鳥根県立松江養護学校
59	世代間コミュニケーションと教育 プロジェクト		